

2018 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	認定 NPO 法人障害者放送通信機構
活動テーマ	緊急災害時における聴覚障害者の情報伝達支援活動事業



1995年の阪神淡路大震災や2007年の新潟県中越沖地震が起こった際、聴覚障害者に避難指示情報や避難生活情報が届かず孤立を強い困難な生活状況が顕在化し、阪神淡路大震災では7人もの聴覚障害者が死亡するという痛ましい事態となりました。

本事業により行政機関や当事者団体、地方放送局と連携して実施することにより、聴覚障害者の防災力向上を図り、阪神淡路大震災のような「あってはならない事態」を繰り返さないことを目的としました。

本事業において、和歌山県庁やろう防災士による防災講演、また和歌山県庁制作の防災映像を視聴し、参加者は平常時から地域と連携し防災意識の向上や危険箇所などの把握、防災訓練等の実施が大切であることを学びました。

その後「橋本・伊都聴覚障害者防災対策推進委員会」の取り組みについての説明や避難所で必要な手話をDVDとして制作し地域に配布する取り組み、防災訓練に積極的に参加している話など防災意識向上につながる内容となりました。

昼食は火がなくてもコップ1杯の水でできる温かい防災食を食べる体験をし、参加者からは「想像以上に美味しい」「防災食は冷たいものと考えていたけれど温かいものが食べられるとは思わなかった」などの感想が寄せられました。最後に避難所等で想定される情報保障の一環としてテレビ和歌山のニュースにリアルタイムで手話と字幕をつけて、受信機「アイ・ドラゴン4」で合成される映像を体験しました。

本事業を通じて、聴覚障害者の「自助」「共助」の防災意識の向上が図られ、より一層、聴覚障害者のための防災関連事業継続の必要性を感じました。

<写真>

(左上) 和歌山県危機管理局 菅野(すがの) 悠斗(ゆうと)氏による講演 (左下) ろう防災士 高塚 稔氏による講演
(右上) 防災食(カレー) (右下) テレビ和歌山にリアルタイムで手話と字幕をつけて情報保障を行う様子